

常任委員会からの提言や要望は、
どのように町政に反映されているのか



町長

相当な数があるが、担当課と相談し、
実施できるものはしっかりと対応していく

備前島久仁子

質問

3常任委員会からの調査報告や提言は、どのように協議され生かされてきたのか。

答弁

町長 年間を通して、常任委員会や一般質問、予算・決算審議も含めると、相当な数の提言や要望が出されている。それを全て実行することは不可能だが、執行側が第四保育所を2階建てで計画したところ、議会は平屋建てが望ましいというところで、最終的には平屋建てにした経緯がある。このように、委員会や議会の提言を真摯に受けとめ、各課と相談し実施できるものはしていきたい。

質問

日本の高齢化が進む中、健康寿命をいかに伸ばすかは、大きな課題だ。筋力トレーニングだけでなく、時には口腔講習などをプラスし、参加者が飽きのこないような指導を町が行っていく必要があるのでは。

答弁

町長 筋トレには現在、約700人が参加し、介護予防や認知症予防に役立っている。今後は「ふれあい隊養成講座」でボランティアを養成し、地域の筋トレや、ふれあいの居場所を協力していただける人材を増やしていきたい。

質問

介護予防サポーターのレベルアップや情報交換については。

答弁

町長 それも一緒に考えていく。



平屋建てとなった第4保育所

質問

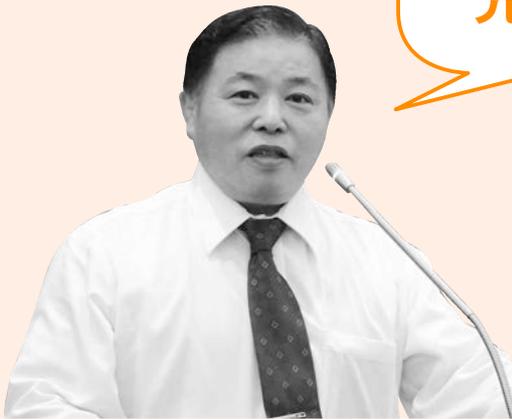
東部スポーツ広場は、バーベキューをする人で大変人気があるが、路上駐車や騒音、ごみの置き去りで、住民からの苦情が多い。管理はどう行っているのか。

答弁

町長 平成18年度から指定管理者による管理を行っている。バーベキュー場の利用者は増える一方で、大型連休は大混雑となり、騒音やごみの問題が起きている。今年度からは、土・日・祝祭日には指導員が常駐して対応しているが、想定以上の利用者がいるため、警察が出勤し、車を移動させたこともあった。今後連休には予約制を取り入れ、利用者の入場制限を行うなど、しっかりと管理をしていきたい。

なお、町民への周知については、ホームページや広報で行っていききたい。

玉村町は公共交通の 充実が必要!



石内 國雄



町長

公共交通の利便性の向上を 図りたい

質問

玉村町の未来には、公共交通の充実が必要と考える。町の公共交通の今後の計画を問う。

答弁

町長 公共交通は、まちづくりとの一体性の確保や、地域全体を見渡した総合的な公共交通網を形成する必要があるため、「地域公共交通形成計画」「地域公共交通再編実施計画」を平成28年度に作成したい。また、乗り合いタクシー「たまりん」のデマンド化の検討もを行い、交通弱者対策や公共交通の利便性の向上を図りたい。

質問

町の最寄りの駅は、新町駅。ここへのアクセスの充実を図り玉村町の利便性と価値を高めよ。

答弁

町長 新町駅の活用は、玉村町にとって有用。新町駅への利便性は十二分に考えていく必要がある。

質問

隣接市での開発に対して、町は積極的に取り組むを考えるべきだ。玉村町の現状と考えるを問う。

答弁

町長 常に周辺市や広域での動きの情報収集に努め、本町だけで完結する開発事業を考えるのではなく、周辺市が計画している事業に、どのような方策が打てるか検討を行い、それぞれの市町村で影響し合っ、て相乗効果をねらえる計画の立案をしていきたい。



開発が進む伊勢崎市の東毛広域幹線道路沿線

質問

道の駅玉村宿の情報発信拠点の現状と、運営主体等の運営方針を問う。

答弁

町長 情報発信センターで、チラシや情報紙等を常設し、周辺地域の各種情報を積極的に発信している。

施設の所有者は町であり、施設管理等の諸権限も町となっている。運営に関する諸権限は、受託者である玉村町農業公社より任命された駅長が持っている。今後は、ビジネスサポート機能等の充実を図り、多機能型の休憩施設を目指すことで、平日の固定利用客を獲得できると考えている。

休日は、定期的なイベントやアミューズメント機能等の充実で、休日ドライブの「お立ち寄り所」の確立を図っていく。